

# 水害から身を守るには、 何が必要か



6年 3組

## 1 調査編

- ① テーマ設定の理由
- ② 避難場所について 2ページ
- ③ 天気や情報の確認 3ページ
- ④ 避難訓練の大切さややり方 4ページ
- ⑤ 避難グッズの大切さや中身の紹介 5ページ
- ⑥ 水害から身を守るために 6ページ

## 2 実践編

- 水害時の避難場所の確認 7ページ
- 家庭で備えてあった備蓄品 8ページ

## 3 まとめ・参考文献

9ページ

## ① 調査編

### ① テーマ設定の理由

私達が水害というテーマにした理由は「大規模災害で足立が沈むという」ポスターを見て、備えておいたほうがいいと思ったからです。



## ②避難場所について

---

避難場所についてはなるべく山から遠い場所に、避難したほうが良いです。理由は山から近いところだと、土砂崩れがあり、家などが崩れるおそれがあります。川に近いところにいると、川が氾濫し、家が流される可能性があります。なので、ハザードマップを見ると良いです。ハザードマップをみると地域の川などの情報が、確認できます。これを家族と確認すれば避難場所がすぐに、わかります。避難場所を知り、すぐに避難をしたほうが良いです。

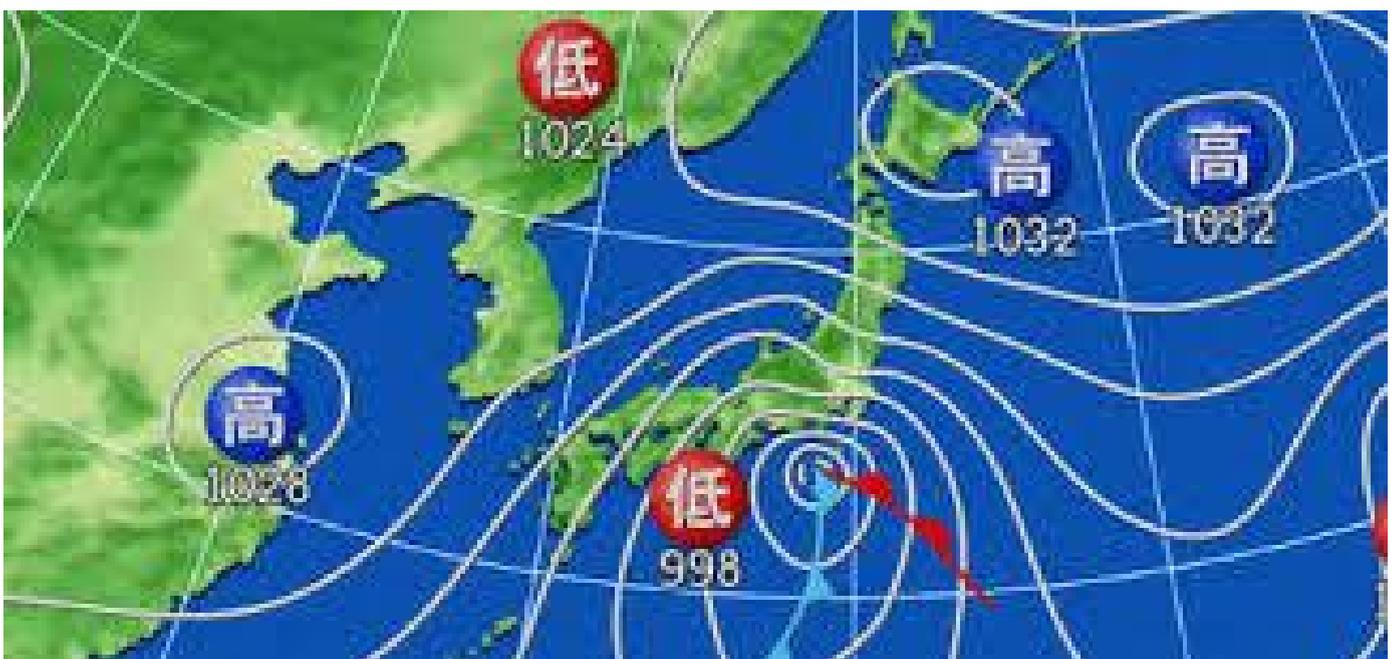
### ③天気予報などの情報の確認

私は天気やニュースをこまめに確認すること、身の回りの危険な場所を確認しておくことが大切だとかんがえました。そこで私は天気などについて調べることにしました。

1、北西に雷が出ると雨が降ります。雷をもたらす積乱雲は北西から南東へと動くものが多く、雷の光が見えなくても音が聞こえたら注意しなければなりません。皆さんも北西に雷が出たら注意しましょう。

2、気象庁のホームページでは天気予報・警報・注意報・気象衛星画像・レーダー画像などの情報が発表されています。また防災情報提供センターでは風・雨・気温などの情報を市や街の調べたい地域の地図上に重ね合わせて見ることができます。

皆さんも災害が起きた時や困った時にはこのような情報などを調べて確認しましょう。



## ④避難訓練の大切さと、どんなことをすれば良いのか？

---

皆さんは、避難訓練はどれくらい大切だと思いますか？災害はいつ起こるかわかりません。だからこそ、いざという時のために備えておくことが大切です。さらに、避難訓練をしていたおかげで被害が少なくすんだこともあります。避難訓練には真剣に取り組みましょう。

次は、具体的にどんな事をすればいいかです。例えば、すぐに高い所に逃げるなどの訓練をすると良いと思います。実際に起きた時に、落ち着いて避難できるよう、繰り返し何回も訓練をしましょう。さらに防災宿泊体験という訓練を行った学校もあります。これは、帰宅できなかつたり学校が避難場所となったことを想定して学校で一泊する宿泊体験です。非常食を食べたり、防災用の毛布をしいて寝たりしてみるなど、実際の避難所の生活を体験しています。皆さんも、実際に起きた時にどんなことをするのかを想定して、自分で考えた訓練をしてみましょう。



防災宿泊体験様子

## ⑤避難グッズの大切さや、中身の紹介

---

いつ起きても身を守って行動できるように



連絡・情報入手のために



6月の大阪府北部地震

中国・関西地方を中心とした平成30年7月豪雨など近年、いつどこで地震や自然災害が起こるかわかりません。

そこで確認しておきたいのが「避難グッズ」です。避難グッズは自然災害が起きたときに色々と役に立ってくれます。連絡が取れないときは十円玉で公衆電話で電話をかけられます。ヘルメットは地震が起きたとき頭を守ってくれます、寒いときはサバイバルブランケットで温まれます。このように自然災害が起きたらものすごく役立ってくれます。自然災害はいつ起きるかわかりませんので、早めに確認しましょう。

⑥水害から身を守るために

避難するときは冷静に行動することが大切です。ここでは水害時の避難の心得を紹介します。

### 1. 公共機関の情報を聞く

まずは、天気予報や速報ニュースなどの情報を、積極的に入手することが大切です。テレビやラジオなどで必要な情報を入手しましょう。

### 2. 浸水危険箇所を知る

水害の危険性を周知し、水害への備えやじん速な避難に役立つよう、東京都では浸水予想区域図を公表しています。日頃から浸水の起きやすい箇所などを確認しておきましょう。

### 3. 浸水より高い場所へ

浸水した高さより高い場所へ避難します。同じ建物でも上層階など、浸水から安全に身を守れるところへ避難しましょう。

### 4. 浸水した道路は通らない

浸水時の歩行可能な水位の目安はひざ下まで。水位が低くても水の勢いで動けなくなる危険性があるので、水が流れてきたら高所へ早急に避難します。また、周囲より低く冠水しやすい道路も危険なので通らないようにしましょう。



## ② 実践編

### ① 水害時の避難場所の確認

避難するときに冷静に行動するには日頃からの備えが必要です。私は水害への備えとして、もし水害が起きたときに避難する場所、避難完了までの避難手順の確認をしました。

#### 1. 家族と一緒に避難する場所を決める

水害が起きたときに避難できる、安全な場所を家族と一緒に話し合っ決めてました。私達はマンションに住んでいるので自宅待機になると決まりました。自宅待機でも危険なときは、マンションの上の階へ避難します。

#### 2. 水害時の避難手順

水害が起きたときに、あわてず避難ができるように家族で避難手順の確認をしました。まず、テレビやハザードマップでこまめに気象情報などの確認をします。次に、食料、飲料の確認をします。そして、祖父母に安否確認をします。すべての準備と確認ができれば避難します。



(左は  
ハザード  
マップ)

## ②家庭で備えてあった備蓄品

---

### 1.自宅での避難用(在宅避難で準備するもの)

食料品 ・飲料水 ・食品(レトルト、缶詰など)

調理用品 ・カセットコンロとボンベ ・ラップ

・アルミホイル ・ポリ袋 ・紙皿 ・紙コップ

衛生用品 ・簡易トイレ ・トイレトペーパー

・除菌シート ・ドライシャンプー

救急用品 ・常備薬 ・傷薬 ・お薬手帳 ・絆創膏情報機

器 ・ラジオ ・スマートフォン ・充電器

など

### 2.自宅外での避難用(避難先に持ち出すもの)

食料品 ・飲料水 ・食料

衣服 ・室内履き ・タオル ・着替え ・雨具

衛生用品 ・簡易トイレ ・トイレトペーパー

・除菌シート ・歯ブラシ ・マスク ・消毒液

・体温計 ・ドライシャンプー

救急用品 ・常備薬 ・傷薬 ・お薬手帳

貴重品 ・現金 ・通帳 ・印鑑 ・健康保険証

情報機器 ・ラジオ ・スマートフォン ・充電器

など



## まとめ

水害から身を守るためには、日頃からの備えが必要だとわかりわかりました。事前に避難場所を知っておいたり、避難手順の確認をしておいたり、かぞくとはなしあつて、備蓄品を揃えておいたりすると、あせらず冷静に行動できるので、安心だなと思いました。

## 参考文献

- 1.「足立区ハザードマップ」足立区HP「自衛隊防災BOOK」 自衛隊／防衛省
- 2.東京防災ノート 東京都教育委員会